



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2026年  
No.4  
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

## 投与量



### 事例

#### 【事例の詳細】

施設に入所している患者に、ラゲブリオ錠400mg 1回4錠1日2回朝夕食後5日分とカロナール錠200 1回2錠10回分発熱・疼痛時が処方された。薬剤師が処方監査を行った際にラゲブリオ錠400mgの1回量が1600mgになることに気付き、疑義照会を行った結果、ラゲブリオ錠400mg 1回2錠1日2回に変更になった。

#### 【推定される要因】

処方医が勤務する医療機関ではラゲブリオカプセル200mgが採用されていたが、最近、ラゲブリオ錠400mgに切り替わっていた。処方医はそのことを失念していたため、ラゲブリオ錠400mgの用量を入力する際にラゲブリオカプセル200mgのカプセル数を入力したと推測される。

#### 【薬局での取り組み】

ラゲブリオが処方された場合には、用法・用量、併用薬との相互作用などのほか、規格・剤形についても確認する。



### その他の情報

販売名	ラゲブリオカプセル200mg	ラゲブリオ錠400mg
用法・用量	通常、18歳以上の患者には、モルヌピラビルとして1回800mgを1日2回、5日間経口投与する。	
販売開始	2021年12月	2025年5月

(2026年2月9日現在)



### 事例のポイント

- 新型コロナウイルス感染症経口治療薬のラゲブリオは、2025年5月にラゲブリオ錠400mgが発売され、先に販売開始されたカプセル剤（200mg）と併せて規格・剤形が異なる2種類の製剤が販売されている。
- ラゲブリオカプセル200mgは、1回4カプセル服用する薬剤である。一方、ラゲブリオ錠400mgは1回2錠服用する薬剤であり、カプセルと比較して小さく、服用時の負荷を軽減できることが期待されている。
- 本事業には、ラゲブリオ錠400mgの発売以降、採用薬をラゲブリオカプセル200mgから切り替えた医療機関からラゲブリオ錠400mgが誤った用量で処方され、過量であることに気付いた薬剤師が疑義照会を行い、用量が変更になった事例が報告されるようになった。
- 薬剤師は、ラゲブリオは規格・剤形の異なる2種類の製剤が販売されていることを踏まえ、医療機関が採用薬の規格を変更した後は用量の処方間違いが生じやすいことを認識し、処方監査の際には、薬剤の規格・剤形、1回量・1日量に間違いがないか確認することが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。